

俳優 石上亮の大好きな宿題  
『映画感想文』

第7回 ザ・ウォーカー  
2010年7月5日

今、監督・脚本・主演で『J・IV・M ～a great LOVE～』という長編映画を制作しています。主なロケ地は故郷・藤枝市。たくさんの地元の方々の協力を得て撮影は終了、現在は編集作業に突入しています。本作でオレは、「J・IV・M(ジェイフォーエム)」という4人組の暗殺団のリーダー・BOOK(ブック)という役を演じました。その名の通り、一冊の本を常に持ち歩いている男です。風貌は長めの髪にメガネ、ピンクのストライプシャツを細身のブラックパンツに IN という怪しい出で立ちです。しかし、今思うと、何で本なんて持たせたんでしょうね。う～ん、思い出せない。単なる思いつきだったのかもしれませんが、結果的には本はストーリーにおいて重要な役割を果たしました。

実は『ザ・ウォーカー』という映画にも、一冊の本を常に持ち歩いている男が出てきます。風貌は坊主頭にサングラス、カーキのコートにゆったりしたパンツにブーツというイカツい出で立ち。『ザ・ウォーカー』の原題は『THE BOOK OF ELI』。個人的には原題の方が親近感が湧いてきて、好みです。主人公はデンゼル・ワシントン演じる ELI(イーライ)という男で、歩いて旅をしているということ以外は謎に包まれています。そして、彼が旅をしているのは、大規模な戦争で文明が崩壊してしまった地球。冒頭からイーライは、猫をハンティングして焼いて食べています。そして、猫肉をネズミに分け与えます。「無秩序と混沌」を象徴しているシーン。人間社会も同様です。「西へ向かう」という使命感にも近い衝動に突き動かされて進むイーライに、たくさんの盗賊や暴漢たちが襲い掛かります。邪魔をするな、と言わんばかりに彼らをなぎ倒すイーライ。かたや、「無秩序と混沌」を暴力で支配する男・カーネギー。演じるのは、ゲイリー・オールドマン。イギリス出身の俳優です。欲深く残忍なカーネギーにどこか優雅さが漂うのは、そのせいかもしれません。イギリスはジェントルマンの国ですからね。そう言えばクリストファー・リーも、優雅さを併せ持つ悪役が似合いますよね。彼もイギリス出身の俳優。『スター・ウォーズ エピソード 2/クローンの攻撃』『スター・ウォーズ エピソード3/シスの復讐』のドゥークー伯爵の演技はシビれました。話を『ザ・ウォーカー』に戻します。カーネギーもまた、本を持っている男の1人。しかし彼はイーライとは違って、何故か本の収集に固執している。「本を運ぶ男」と「本を集める男」。本によって結び付けられる2人の運命に注目して下さい。

みなさんの好きな本は何ですか?オレは『ジョジョの奇妙な冒険』(著者 荒木飛呂彦)です。小学生の頃から連載が続いている漫画で、敵味方関係なく魅力的なキャラクターがたくさん登場します。彼らが放つ個性的な台詞回し。クセになります。監督・脚本・主演映画『J・IV・M ～a great LOVE～』も『ジョジョの奇妙な冒険』無しでは語れません。